

1 いけいけ池子GO!!

池子小学校区協議会で取り組む課題

- ・人口減により地元がなくなる危険性
- ・一人暮らしの見守りをどうサポートするか。
- ・お年寄りの痴呆、うつ病
- ・高齢者の見守り
- ・各地区による防犯活動
- ・山が多いので登り坂の途中にベンチが欲しい (子どもを背負って、子どもの手をひいて 買い物袋もって大変)
- ・不審者等の情報が行き渡らない。ネットをやらない人は知らないまま
- ・自治会に入りにくい (特に若い世代)
- ・ウェルカム感ほしい。
- ・自治会が何をやっているのかわからない。
- ・子どもの下校時間に人通りがない場所が多い。事件が起きても目撃者いない。
- ・公園内にゴミ捨て場があるのがありえない
- ・逗子都民の勤務時間に合わせた保育
- ・病児保育
- ・役員の担い手がない。会合、情報共有などありかたを根本的に変える必要 (学童役員、

小学校役員、子ども会役員、町内会役員を同時にやるのは共働き世代にキツイ。月1回平日、年4回土曜、その他色々。休暇を使わざるをえないため、有給なくなる)

・直接ミーティングなどに来なければいけないカベをどう取り除くか？(スカイプによる会議など)

・PTAは必要か？

どうやってやろうか(プラン・提案)

・湘南FMや他の地域FMとのコラボしての情報共有

・気楽に相談できる場所(役所におけるコンシェルジュなど)

・東京や横浜まで行かなくても働ける場所の確保(IT関係の仕事の誘致など)

・近所の交流

・不審者情報を防災無線で知らせる

・あいさつ運動を実施し、不審者を防止する

・自動で情報が分かる自販機を導入する

・気軽に参加できるツールを使う(自治会の中身を公開する。SNSで発信する。チャット)

・お年寄りが子どもを見てくれるとよい。(対価を払える仕組みで)

・地域にコンシェルジュを配置し、何でも相談できるようにする

越えなければならないカベ

とくに行政に求めるサポート

・IT産業の誘致(サテライトオフィス)

・企業する人にスペースの提供

・空き家の借り上げ

・空き家を民間で稼げる仕組みにしてもらいたい(地権者にもメリットを)

・逗子のブランドアップ

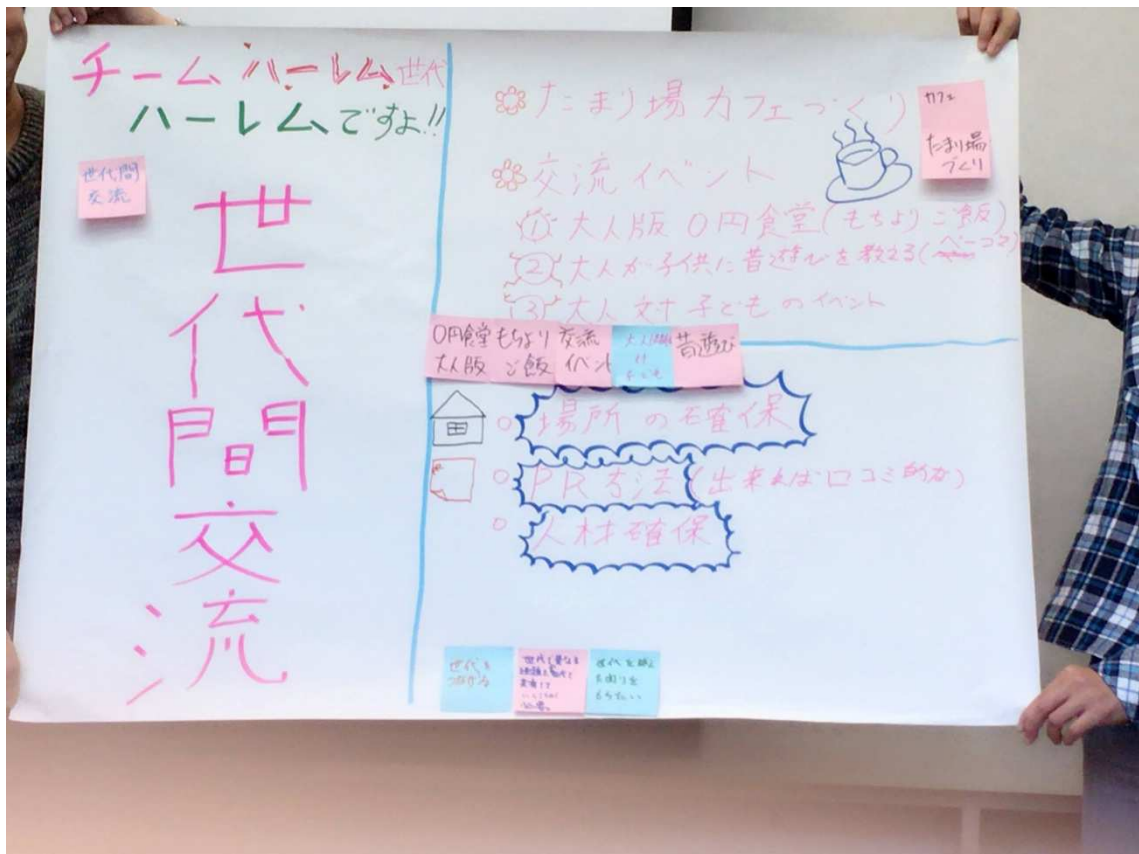
・自治会のアピール(住んでる人が自分事としてとらえるように)

・DIYを池子でモデルケースとして実施してもらう

・空き家に学生が住めるようにし、若い人を呼ぶ

・昼間の人口を増加させる

・デジタルサイネージの活用(防災情報など)



2 チームハーレム世代 ハーレムですよ！！

<世代間交流>

そのために何をすればいいかの案

- ・ たまり場カフェづくり
- ・ 交流イベント
 1. 大人版 0円食堂 (持ち寄りご飯)
 2. 大人が子供に昔遊びを教える (ベーゴマ等)
 3. 大人対子どものイベント

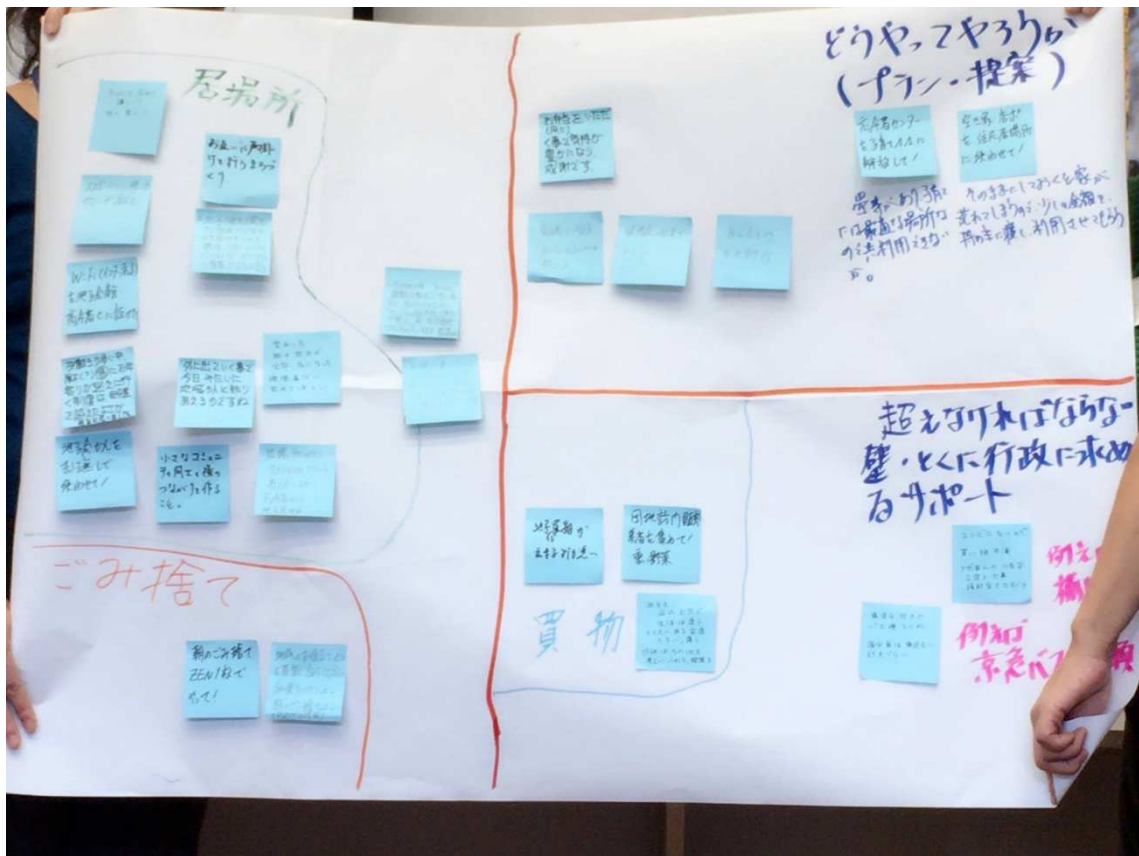
行政に期待するところ

- ・ 場所の確保
- ・ PR方法 (出来れば口コミ的)
- ・ 人材確保

世代をつなげる。

世代で異なる課題を、全世代で共有していくことが必要。

世代を越えた関わりを持ちたい。



3 どうやってやるう

居場所

家以外で、誰かとコミュニケーションが取れる場所を求めている人はいる。アクセスしやすい場所で、好きな時に行ける場所という居場所づくりがされていくと良いのではないか。

その候補として、既存施設を利活用できたら良い。施設利用者を制限せず、幅広い人が使いやすいようにし、様々な年齢層が互いに足りない部分を補えるようにしていけないか。またそのような場で得意分野を生かしていけるなどしていけたら良い。施設へ行くきっかけとなるよう、ネット環境を整えることも重要なのではないか。

- ・ ネットを広めて欲しい。特に老人に
- ・ スマホ・パソコンの使い方サロンが欲しい
- ・ Wi-Fiを池子会館や高齢者センターに設けて
- ・ 共働きの多い中、厚木市？ではお年寄りが迎えに行く制度は年齢差を越えた良さがあると思う
- ・ 池子会館を予約なしで使わせて
- ・ お互いに声掛けを行うまちづくり
- ・ 池子の歴史を聴きそこなったのですが、小学校やあらゆる機会でも話していただければより池子に愛着がでると思います

- ・外に出ていくことで今日みたいに地域の人と知り合えるのですね
- ・小さなコミュニティ同士で横のつながりを作る
- ・昔あった桃の花木が全部亡くなった環境美化に努めて欲しい
- ・高齢者センターを子育てママに開放して
- ・居場所づくり：予約なしにフラッと寄り合いしたい（高齢者センター、池子会館）

ごみ捨て

階段の上り下りやゴミ捨て場に行くことが難しい高齢者が多い。手伝ってもらいたいとは思いつつ、隣近所にはゴミを見られたくない、ボランティアということでは気が引けるなどと思う方が多い。

Zenが発行されてやるということになると、頼みやすくなるのではないか。ゴミ捨て以外のことも含み、担い手の募集と地域通貨の活用を地域ですていくことが可能ではないだろうか。

- ・朝のごみ捨て Zen でやって
- ・地域のお役立ちマンを募集し、紹介して欲しい（幼児あづかりマン、朝のごみ捨てマン）

空き家再生

何かをするための場所がないということがある。そういった市民のニーズと空き家や店舗の引き合わせを行政ができないだろうか。

例えば、空き家になっている持ち主に固定資産税分のみ借りて側は支払うなどして借りることができるなどすると双方ともにとって良いことがあるのではないだろうか。実際小規模保育の場所等になれば、住民としても近くにあるということは大きなメリットとなると思われる。

- ・空き家、店舗を住民の居場所に使わせて

買い物

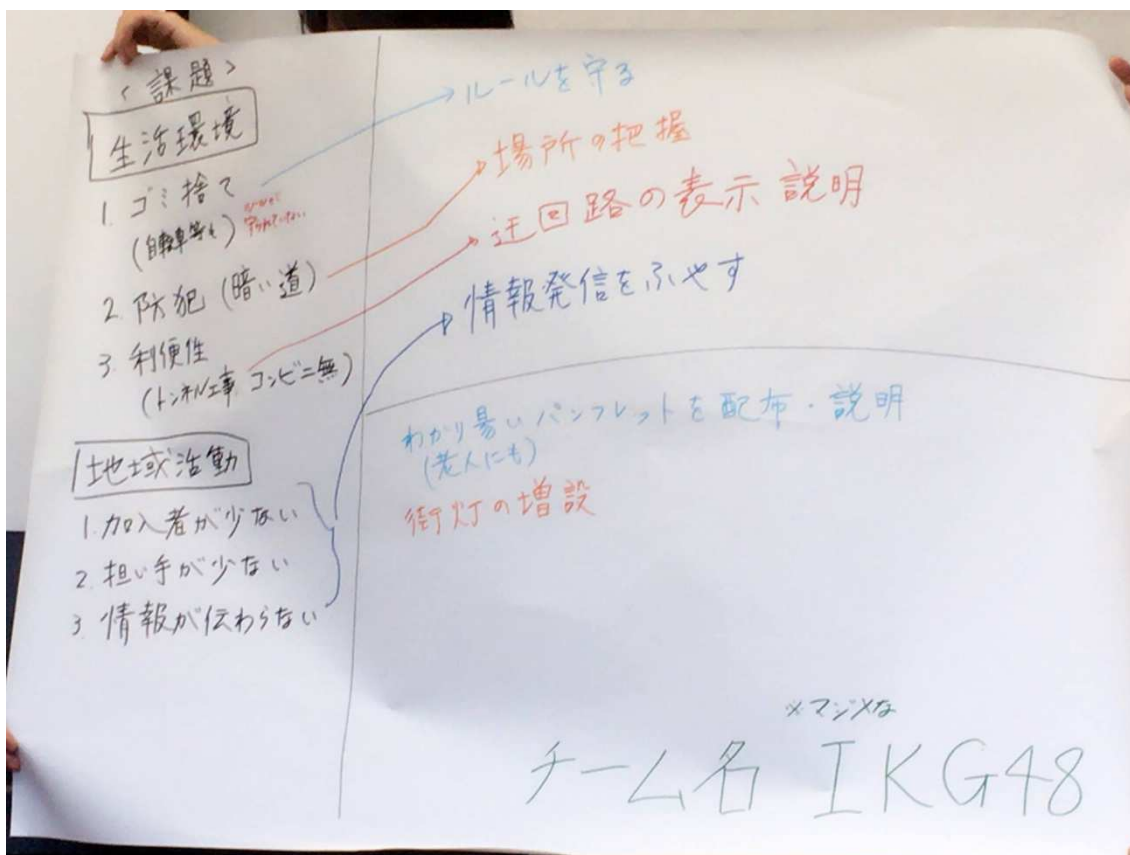
買い物の場所がない地域にもとても小さな商店があつて頑張っていたりする。ちょっとした買い物しかできないが、地域としては大事な存在であり、なくならないよう行政が関わって欲しい。

久木では、スーパーが坂下にあるので行きはよいが、帰りが大変なので介護施設の送迎バスの空白の時間帯のみ、スーパーから帰宅する坂道を上がっていくようにボランティアバスが動くようになった。現状ある資源をうまく使えないかということもあるが、他地域でも状況は異なれど、生活があり困っていることはあるので、うまくできないか。

- ・池子は買い物ができる場所がない
- ・団地訪問販売業者を集めて。重い野菜など
- ・池子も丘の上下で生活は違う。マイカーのある家庭とない過程で違う。行政はそのことを考えに入れて対策を
- ・コンビニがないので買い物が不便。アザリエの小売店2店は大事。補助金を出すべき
- ・東逗子駅行きのバス便を作れ。高齢者は東逗子に行きづらい

その他

- ・今の世の中「声かけ」運動が多い兒だと思ふマスが、あるマンションで「マンション住人同士の声かけ禁止」等、変な時代になったと思ひますが、世の中が變つた
- ・子どものことはあまり知らない、区会の方や小学校からの回覧板で見るくらい
- ・参加者の問題（自治会の役員のやり手不足）
- ・協議会役員のあり方
- ・自治会との関わり方
- ・同じお弁当をいただくことで気持ちが豊かになり感謝です。



4 IKG48

課題

<ルールの問題>

- ・ごみ捨てのルールが守られない（収集方法が変つたことが原因？）
- ・駐輪場が自転車の捨て場になっている（居住者は区別できるようシールあり）
- ・ベランダ・階段等で喫煙により部屋に臭いが入り困っている（喫煙場所の配慮をポスター掲示して対応）

<生活環境>

- ・買い物できる場所の困難（ちょっとした買い物ができるコンビニがない）
- ・急な坂が多い

・神武寺トンネルの工事により交通が不便

<防犯>

・夜暗くて人通りが少ない

<地域参加・担い手>

・後継者が育っていない

・役員になりたがらない

・フリーライダーで満足してしまい、地域参加しない

・役員や民生委員等の担い手が少ない

・地元が何をしているか伝わっていない

・子育て世代の参加しやすい環境づくり

・地域にいる老人があまりつながっていない（孤独死を防ぐ）

・シニアサロンを開いているが広がっていかない（まだおしゃべりの場、同じ人のみ）

<団体への加入者が少ない>

・ズシッ加入者が少ない（①動ける 60代は忙しい、②70代は介護に忙しい、③80代は動けない→お任せ人種に）

・子どもはいるのに子ども会入会者が減少している（過去9つ有った子ども会が4に）

<健康・痴呆予防>

・軽度の痴呆の人が増えている、重症化予防の体制が少ない

<その他>

・避難場所をみなぎ把握してない

・団地の人たちのアクセス

現在行っている取り組み

・団地内の草刈りを実施し、親睦を図っている

住民のできる対策

<生活環境>

1. ルールを守る

2. 場所の把握

3. 迂回路の表示・説明を市へ要望

<地域活動>

情報発信を増やす

市にお願いする対策

<生活環境>

1. 分かりやすいパンフレットを配布・説明（老人にも）

2. 該当の増設

3. 迂回路の表示・説明

<地域活動>

情報発信を増やす手段の提供



5 チーム T.K.O

各課題について

- ・自治会、管理組合等における地域の担い手（役員不足）
- ・地域行事への若い世代の参加が少ない。
- ・ルールを守らない人への対応、自分勝手な人が多すぎる。
- ・高齢者の独居、新興団地の高齢化
- ・空き巣被害の増加
- ・チラシや広告を配布しても誰も興味を持たない、知らないと主張する方が多い。

どうやってやろうか、自分たちで出来ること、行政に期待すること

- ・引退した人（特に男性）を地域の担い手作りに引き込む。おそらく地域で孤立してるであろう。
- ・地域に情報を伝える手段として、もっと気軽に利用出来る広報掲示板を作ってほしい。地域自治協議会が中心となって使用できるよう検討して頂きたい。
- ・声かけはあきらめない、根気強く参加を求める。

越えられない壁、とくに行政に求めるサポート

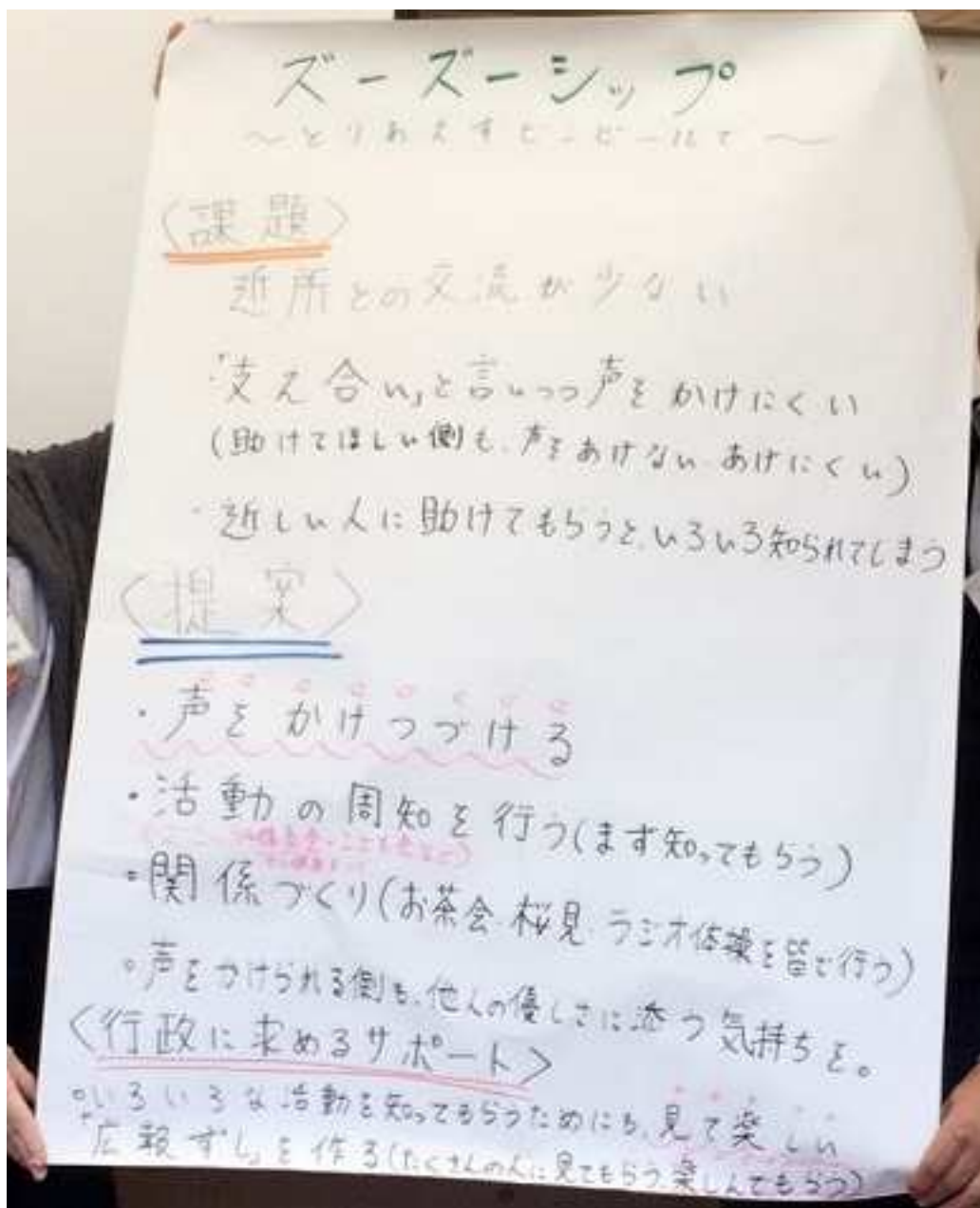
- ・地域の活動について損得勘定で考えがちである。
- ・若者（学生）は今後の人生を形成している途中である。そのため、地域の活動に参加、

興味を持つことは難しいのではないかと。理解したうえでの情報発信。

・社会人が地域活動に参加するためには、地域、地元で雇用が生まれにくい限り、難しいと考える。

・地域に情報を伝える手段として、もっと気軽利用出来る広報掲示板を作ってほしい。

地域自治協議会が気軽に使用できるよう検討して頂きたい。



6 ズーズーシップ～とりあえず瓶ビールで～

課題

- ・近所との交流が少ない
- ・支え合いと言いつつ、声をかけにくい

(助けてほしい側も、声をあげない、あげにくい)

- ・近い人に助けをもらおうと、いろいろ知られてしまう懸念

提案

- ・声をかけ続ける
- ・活動の周知を行い、まず知ってもらう
(ズシップ・体育会・池子健康祭り・こども会等)
- ・関係作り
(お茶会・桜見・ラジオ体操を皆で行う等)
- ・声をかけられる側も、他人の優しさに添う気持ちを持つ

行政に求めるサポート

- ・いろいろな活動をしてもらうためにも、見て楽しい「広報ずし」を作る
(たくさんの人に見てもらおう、楽しんでもらおう)